

第207期

平成26年4月1日→平成27年3月31日

株主通信

株主の皆様へ



取締役社長 藤田 晴哉

平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申しあげます。

さて、当社グループの第207期連結会計年度(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)の概況につきましてご報告申しあげます。

当連結会計年度におけるわが国経済は、公共投資および設備投資は堅調に推移したものの、個人消費や住宅投資は消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動からの回復が遅れるなど、景気は回復基調ながら力強さを欠きました。

このような環境下において当社グループは、平成27年度を最終年度とする3ヵ年の中期経営計画「Future '15」の達成に向け、その基本方針である「海外戦略の充実」のもと、引き続き成長分野・新規市場の開拓と深耕、生産・販売拠点の拡充と再構築、新商品・新技術の開発等に注力しました。

この結果、当連結会計年度の業績につきましては、売上高は1,697億円(前年同期比2.7%増)、営業利益は27億7千万円(同8.6%減)、経常利益は38億1千万円(同14.8%増)、当期純利益は12億2千万円(同24.0%減)となりました。

なお、新規事業の開拓の一環として、昨年7月に木質バイオマス発電事業への進出を決定し、本年1月に「徳島バイオマス発電所」の建設に着手しました。また、研究・開発力の強化などを目指し、本年2月に「クラボウ先進技術センター」(大阪府寝屋川市)の建設に着手しました。

今後のわが国の経済情勢につきましては、海外景気の動向に懸念材料があるものの、雇用・所得の改善や経済対策の効果などにより、景気は今後も緩やかながら回復していくものと思われまます。

このような経営環境のもと、当社グループは、持続的な成長の実現に向け、社会のニーズに合った商品・サービスの開発・提供、グローバル市場への販売拡大、新事業分野の開拓や新規事業の育成・拡大に注力してまいります。

また、株主の皆様をはじめとするステークホルダーの方々に支持されるよう、コーポレートガバナンスの充実を図るとともに、法令遵守の徹底など、倫理ある事業活動の推進にも努め、グループとしての中長期的な企業価値の向上を目指してまいります。

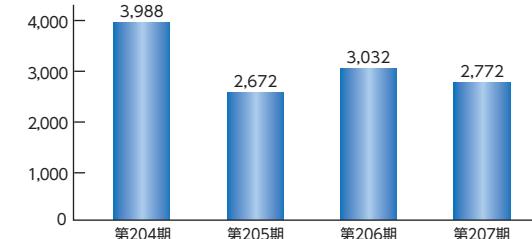
株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成 27 年 6 月

■ 売上高 (単位:百万円)



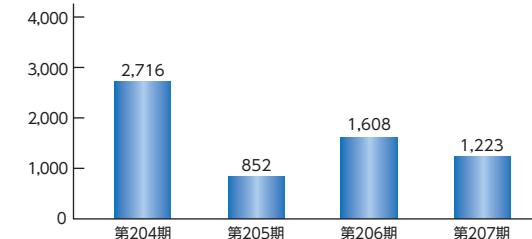
■ 営業利益 (単位:百万円)



■ 経常利益 (単位:百万円)



■ 当期純利益 (単位:百万円)



当社グループの事業概況

繊維事業

綿、合繊、羊毛その他素材の繊維製品（糸、織物、編物および二次製品）、不織布の製造・販売、補強ネットの製造・販売および綿、合繊織編物の染色整理加工

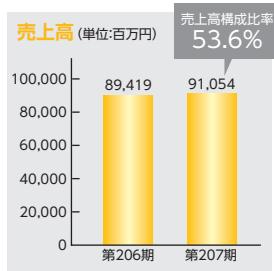


原糸分野は、国内外の連携によるグローバルな生産・販売により好調に推移しました。ユニフォーム分野は、公共投資の増加に伴い需要が回復基調にあり、繊維資材分野も、フィルター向け不織布などが順調でした。

一方、カジュアル分野は、円安による輸入コストの増加などからきびしい状況が続きました。

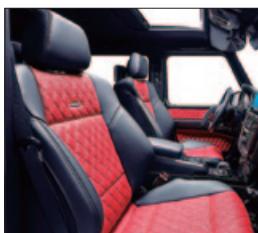
海外子会社におきましては、ブラジル経済の停滞に加え、東南アジアでも受注の低迷や人件費などのコストアップにより、全般的に低調に推移しました。

この結果、売上高は910億円（前年同期比1.8%増）、営業利益は8億5千万円（同33.8%減）となりました。



化成品事業

ポリウレタンフォーム、合成木材、無機建材、機能性フィルム、精密ろ過関連製品および高性能エンブラ製品の製造・加工・販売



自動車内装材向け軟質ウレタンフォームは、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動から国内の自動車の生産・販売台数が減少したことなどにより業績が低迷しました。

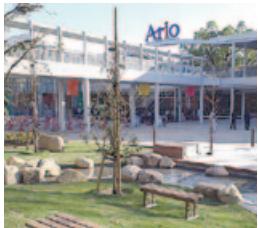
機能フィルム分野は、北米自動車向けおよび文具向け製品などが堅調に推移しましたが、住宅建材分野は、新設住宅着工戸数の減少などにより低調でした。

この結果、売上高は477億円（前年同期比1.7%減）、営業損失は2億5千万円（前年同期は営業利益7千万円）となりました。

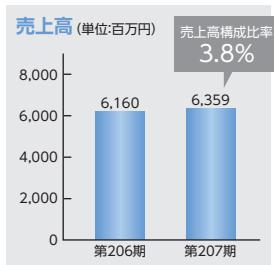


不動産活用事業

不動産の賃貸およびホテル、自動車教習所等の経営

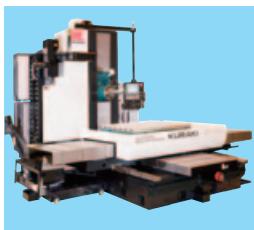


昨年5月から愛媛県松山市の社有地を大規模太陽光発電所（メガソーラー）用地として賃貸開始したことなどにより、売上高は63億円（前年同期比3.2%増）、営業利益は31億8千万円（同5.1%増）となりました。



工作機械事業

工作機械、産業機械等の製造・販売



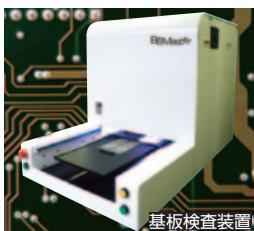
主力の横中ぐりフライス盤は、国内販売が好調に推移し、また、海外向けも韓国や台湾などアジア向けが順調でした。

この結果、売上高は68億円（前年同期比18.1%増）、営業利益は6億1千万円（同55.6%増）となりました。



エレクトロニクス事業

色彩管理、生産管理、CAD等に関する情報システム機器および検査・計測システムの製造・販売・保守



飲料容器の検査装置は低調に推移しましたが、基板検査装置や半導体洗浄関連装置は堅調でした。

この結果、売上高は49億円（前年同期比17.3%増）、営業利益は1億3千万円（同15.9%増）となりました。



食品事業

真空凍結乾燥食品の製造・販売



即席めん具材が堅調に推移し、スープ市場向け、製菓向けおよび健康食品向け製品も好調でした。

この結果、売上高は60億円（前年同期比17.6%増）、営業利益は5億6千万円（同44.7%増）となりました。



その他の事業

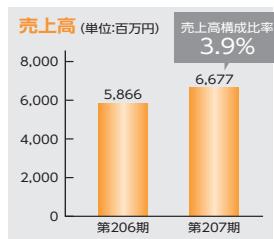
環境・リサイクル関連の各種プラント、設備および機器の設計・製作・施工・販売、バイオ関連製品の製造・販売ほか



エンジニアリング事業は、全般的に低調に推移しました。

バイオメディカル事業は、遺伝子受託解析サービスが低調に推移しました。

この結果、その他の事業の売上高は66億円（前年同期比13.8%増）となりましたが、エンジニアリング事業における資材価格の高騰や人件費の増加などにより、営業損失は3億4千万円（前年同期は営業損失1億9千万円）となりました。



連結財務諸表 (要旨)

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)	科目	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
資産の部			負債の部		
流動資産	89,497	94,106	流動負債	61,986	64,364
固定資産	95,431	102,167	固定負債	33,380	35,661
有形固定資産	55,292	54,078	負債合計	95,366	100,026
無形固定資産	1,424	1,034	純資産の部		
投資その他の資産	38,714	47,053	株主資本	85,920	84,701
資産合計	184,929	196,273	その他の包括利益累計額	36	7,480
			少数株主持分	3,605	4,064
			純資産合計	89,562	96,247
			負債純資産合計	184,929	196,273

連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	前連結会計年度 (平成25年4月1日～ 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年4月1日～ 平成27年3月31日)
売上高	165,228	169,755
売上原価	139,802	144,812
売上総利益	25,426	24,942
販売費及び一般管理費	22,393	22,170
営業利益	3,032	2,772
営業外収益	2,312	2,042
営業外費用	2,017	995
経常利益	3,327	3,819
特別利益	410	62
特別損失	856	1,443
税金等調整前当期純利益	2,881	2,438
法人税等	1,059	1,159
少数株主損益調整前当期純利益	1,822	1,278
少数株主利益	213	55
当期純利益	1,608	1,223

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	前連結会計年度 (平成25年4月1日～ 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年4月1日～ 平成27年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,272	10,072
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,362	△3,658
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,638	△4,976
現金及び現金同等物に係る換算差額	397	275
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	2,667	1,712
現金及び現金同等物の期首残高	12,815	15,483
現金及び現金同等物の期末残高	15,483	17,196

トピックス

当社

「クラボウ先進技術センター」の建設に着手

クラボウ

本年2月に「クラボウ先進技術センター」の地鎮祭が、執り行われました。

「クラボウ先進技術センター」は、化成品事業部の寝屋川工場内の敷地に建設され、来年1月末に竣工する予定です。本センターには、研究開発推進の要となる技術研究所とエレクトロニクス事業部が入居する予定です。この結果、これらの2部門と併せ、エンジニアリング部、バイオメディカル部と、化成品事業部の主力工場である寝屋川工場の当社非繊維各部門が、この地区に集結することになります。

「クラボウ先進技術センター」の名前のとおり、各部門の連携がさらに強まり、新拠点で推進されるR & D (研究開発) 活動が活発化することにより、イノベーションを創出し、非繊維事業拡大を図ってまいります。

クラボウ先進技術センターの概要

- 場 所：大阪府寝屋川市
- 敷地面積：約1,700㎡
- 延床面積：約7,300㎡



クラボウ先進技術センター完成予想図

“KK クラックセンサ”が「2014年日経優秀製品・サービス賞 最優秀賞 日経産業新聞賞」を受賞



繊維事業部

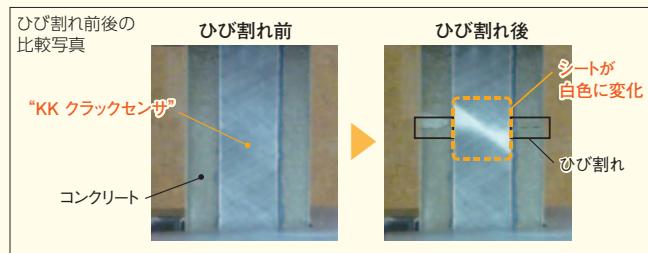
繊維事業部が製造・販売している、コンクリート構造物のひび割れの進行を簡単に目視点検できる繊維樹脂シート“KK クラックセンサ”が、「2014年日経優秀製品・サービス賞 最優秀賞 日経産業新聞賞」を受賞しました。「日経優秀製品・サービス賞」は、毎年1回、日本経済新聞社発行の各メディア（日本経済新聞・日経産業新聞・日経MJ・日経ヴェリタス・日経新聞電子版・Nikkei Asian Review）に掲載された約2万点の新製品・新サービスのなかから特に優れたものに与えられる賞で、今回で33回目となります。



本年2月、受賞式にて表彰を受ける藤田社長

高速道路やトンネル、橋梁などの社会インフラは、今後、耐用年数とされる50年を越えるものが急増するため、その補修・更新が喫緊の課題となっており、これらの点検作業の効率化が求められています。“KK クラックセンサ”は、事前の準備作

業が少なく専門の技術や装置が不要で、同シートを貼り付けたコンクリート構造物にひび割れが生じた場合、その箇所のシートの樹脂配列が破壊され表面が白色に変化し残ることで簡単にひび割れを発見することが可能となります。繊維で補強して強度を高めるといった繊維補強樹脂製品の目的から逆転の発想で、コンクリート構造物のひび割れ点検という新たな用途に活用したアイデア、利便性が評価され、今回の受賞となりました。“KK クラックセンサ”の普及により、ひび割れ箇所を早期に、また確実に発見することが可能となることで、社会インフラの整備に貢献してまいります。



自動車用シートクッション材がVolkswagen do Brasil Ltda.で採用

化成品事業部

化成品事業部は、海外戦略推進の一環として、平成22年、ブラジルに現地法人「クラシキ・ケミカル・プロダクツ・ド・ブラジル(有)」を設立し、自動車用ウレタンモールド製品(シートクッション材など)の製造・販売を行ってまいりました。この度、同社の製品が、ドイツのVolkswagen AGのブラジル現地法人Volkswagen do Brasil Ltda.の車種に採用されました。

「クラシキ・ケミカル・プロダクツ・ド・ブラジル(有)」は、日系自動車部品メーカーのみならず、欧米系自動車関連メー



Volkswagen「ゴルフ」

カーへも積極的な販促活動を行ってきた結果、同社の強みである品質管理力・開発力・顧客対応力を高く評価され、昨年8月からブラジル向け「サベイロ・ダブルキャビン」に採用され、また、本年6月からは南米向け新型「ゴルフ」にも採用されます。

ドイツ車は、快適な座り心地が特長で、Volkswagen do Brasil Ltda.においても、ドイツと同じきびしい規格を設けています。そのきびしい規格をクリアしたことは、「クラシキ・ケミカル・プロダクツ・ド・ブラジル(有)」のシートクッション材の品質と性能の高さの証明であるといえます。

今後も、日本で培った物作りのノウハウときめ細やかな対応力を生かし、さらなる事業の拡大に邁進してまいります。

回路パターン印刷フィルム向けインライン高性能外観検査装置を開発・販売開始

エレクトロニクス事業部

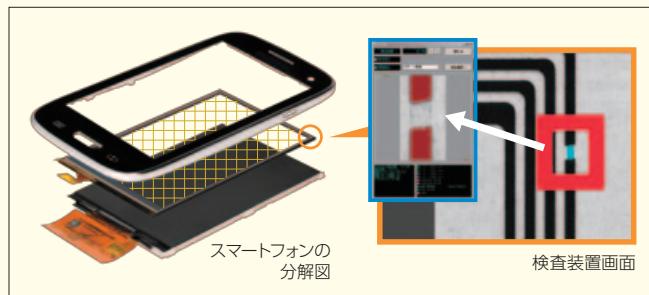
エレクトロニクス事業部では、飲料容器やプリント基板などの各種製造ラインにおいて微細な欠点を検査する外観検査装置を販売してまいりましたが、この度、スマートフォンタッチパネルなどの回路パターン印刷フィルム向けの高性能外観検査装置を開発し、昨年10月より販売を開始しました。

スマートフォンに代表されるように電子機器の小型化、薄型化は日々進んでおり、回路パターンも線幅100 μ mから30 μ mへと、より高精細化し、従来の外観検査装置では、処理速度や解像度において製造現場でのインライン検査が困難になってきています。当社が新たに開発した高性能外観検査装置は、自社開発の高速・高解像度カメラと独自の測定アルゴリズムを組み合わせることにより、製造現場において高速で運搬される線幅30 μ mの回路パターン印刷フィルムの全

数検査が可能となりました。

今後は、ディスプレイ業界はもとより、ウェアラブル端末や半導体業界へも展開し、さらなる販売拡大を図ってまいります。

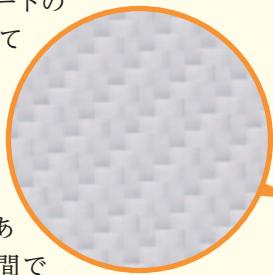
* ウェアラブル端末
腕や頭部など、身体に装着して利用することを想定した装置の総称



繊維強化熱可塑性複合材“NEOMATEX” (ネオマテックス) が 様々な製品に採用

複合材事業化グループ

複合材事業化グループが製造・販売している繊維強化熱可塑性複合材“NEOMATEX”がパナソニック(株)の「Jコンセプト」シリーズの掃除機に採用されました。“NEOMATEX”は、繊維事業で培ってきた織り・編みの技術に繊維補強シートの加工技術を複合化して生み出された新しい素材です。熱可塑性樹脂と強化繊維を複合することで、軽量で高強度、高弾性であることに加え、短時間で



素材表面の織柄



「Jコンセプト」シリーズの掃除機

様々な形状に成形することができるという特長をもった素材です。今回採用された「Jコンセプト」シリーズの掃除機は、本体質量2kgの世界最軽量の掃除機で、本体カバー部に“NEOMATEX”が使われており、“NEOMATEX”が有する軽量、高強度の機能性と素材表面の織柄の美しさが評価されたものです。その他の用途としては、積み重ねて収納できる椅子の座面や地中の配管用継ぎ手など軽さと強度が求められる製品への“NEOMATEX”の採用が拡大しています。今後は、自動車や船舶、物流、建築材料、各種産業資材などへのさらなる用途拡大を目指してまいります。

* 世界最軽量
2014年9月17日現在、家庭用床移動型掃除機の本体質量において
世界最軽量掃除機(パナソニック(株))

関係会社

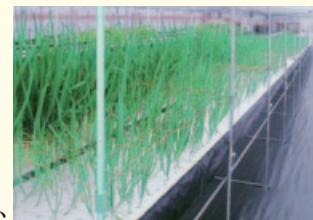
植物工場が稼働開始

フリーズドライ食品の製造販売を行っている日本ジフィー食品(株)は、昨年11月、宇治工場近郊の京都府木津川市の植物工場で「九条ねぎ」の栽培を開始しました。

この植物工場は、太陽光を最大限に活用しつつ、雨天時や夜間などは人工光を利用することもできる太陽光利用型工場です。工場では、培養液を循環させる養液栽培を行うことにより、土壌からの病害などのリスクを回避し、また、各種機器が温度センサ等からの情報をもとに、植物の生育に必要な環境を自動制御することで、安全、かつ、効率的な生産が可能になりました。

日本ジフィー食品(株)

現在、植物工場では、同社のフリーズドライ製品としての需要が多い、京都特産「九条ねぎ」を栽培しています。通常の収穫は、年1回のところ、年6回収穫が可能となりました。また、安全でおいしい生鮮野菜をフリーズドライ加工せず、そのまま販売することも視野に入れて、「九条ねぎ」以外の作物の研究栽培も進めています。



植物工場



当社の株式に関する事項 (平成27年3月31日現在)

- 発行可能株式総数 977,011千株
- 発行済株式の総数 246,939千株
- 株主数 20,926名
- 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社三井住友銀行	11,180	4.84
株式会社みずほ銀行	11,180	4.84
日本生命保険相互会社	9,200	3.98
株式会社中国銀行	7,265	3.15
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	6,761	2.93
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	6,077	2.63
RBC ISB A/C DUB NON RESIDENT-TREATY RATE	6,000	2.60
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	4,357	1.88
三井住友信託銀行株式会社	4,120	1.78
三井住友海上火災保険株式会社	4,000	1.73

(注) ①当社は、自己株式を16,280千株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
②持株比率は自己株式を控除して計算しております。

当社の重要な子会社の状況

区分	会社名
国内	倉敷機械(株)
	日本ジフィー食品(株)
	倉敷繊維加工(株)
	(株)クラボウインターナショナル
	(株)倉敷アイビースクエア
	大正紡績(株)
	東名化成(株)
海外	シーダム(株)
	クラシキ・ド・ブラジル・テキスタイル(有)
	タイ・クラボウ(株)
	サイアム・クラボウ(株)
	(株)クラボウ・マヌンガル・テキスタイル
	広州倉敷化工製品有限公司
広州倉福塑料有限公司	

(注) 上記記載の重要な子会社14社を含め、当連結会計年度の連結子会社は25社、持分法適用会社は2社であります。

当社グループの概要 (平成27年3月31日現在)

当社

- 創立 明治21年3月9日
- 本店 岡山県倉敷市本町7番1号
- 主要な事業所

区分	名称	所在地	
営業所 および 研究所	大阪本社	大阪市中央区	
	東京支社	東京都中央区	
	香港営業所	中国香港	
	技術研究所	大阪府寝屋川市	
工場	織維	丸亀工場	香川県丸亀市
		安城工場	愛知県安城市
		徳島工場	徳島県阿南市
	化成品	寝屋川工場	大阪府寝屋川市
		裾野工場	静岡県裾野市
		群馬工場	群馬県伊勢崎市
		鴨方工場	岡山県浅口市
三重工場	三重県津市		

当社の取締役および監査役 (平成27年6月26日現在)

代表取締役 取締役会長	井上 晶博	取締役員	本田 勝英
代表取締役 取締役社長	藤田 晴哉	取締役員	稲岡 進
代表取締役 専務執行役員	北川 晴夫	常勤監査役	原田 健
取締役員	北 畠 篤	監査役	宮 二郎
取締役員	馬場 紀生	監査役	茂木 鉄平
取締役員	佐野 高司		

(注) 監査役 宮二郎、茂木鉄平の両氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であり、東京証券取引所所有価証券上場規程第436条の2に定める独立役員であります。

当社の執行役員 (平成27年6月26日現在)

常務執行役員	藤原 秀則	執行役員	中村 潔
常務執行役員	八木 克真	執行役員	相徳 朗人
執行役員	岡田 治	執行役員	川野 憲志
執行役員	西澤 厚彦	執行役員	中川 眞豪
執行役員	藤井 裕詞	執行役員	安川 洋

当社グループの従業員の状況

従業員数(前連結会計年度末比増減)(人) 4,628(△160)

(注) 従業員数は就業人員であり、上記のほか、臨時社員・パートタイマー1,150人がおります。

CSRの取り組み

環境ボランティア

大阪本社は、昨年4月から「10-100 (テン・ハンドレッド) プロジェクト」をスタートしました。「10-100プロジェクト」とは、清掃活動に参加した社員の貢献を目に見えるカタチに変えて社会に還元するとともに、社員の参加意識の向上を図ることを目的に、清掃活動への参加人数10人ごとに100枚の抗ウイルスタオルハンカチを寄贈する当社独自の取り組みです。昨年12月には、2,200枚のタオルハンカチを保育園や幼稚園、高齢者施設などにクリスマスプレゼントとして寄贈しました。また、本年4月からは、活動範囲を拡大し、クラブオウ全社で取り組んでまいります。



清掃活動



寄贈シーン

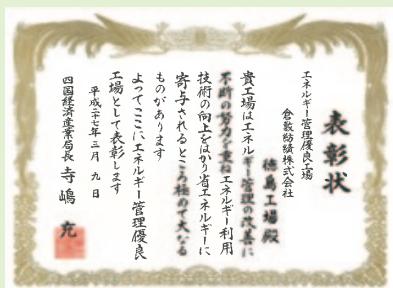


抗ウイルス
タオルハンカチ

省エネルギーの推進

徳島工場の省エネルギー活動が評価され、四国経済産業局から「エネルギー管理優良工場」として表彰されました。同工場では、平成25年度にエネルギー原単位が対前年比で約8%の削減を達成しており、今後も、さらなる省エネルギーの推進に努めてまいります。

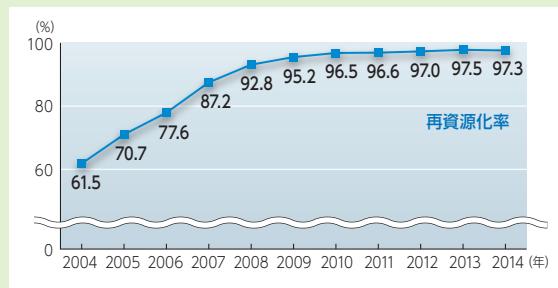
*エネルギー原単位：
一定量の製品などを
生産するのに必要な
エネルギー量



※クラブオウの環境に対する取り組みについて、詳しくはホームページ <http://www.kurabo.co.jp/report/index.html> をご覧ください。

資源の有効活用

クラブオウグループ全体で廃棄物の再資源化に取り組み、再資源化率は2014年度も97%を超えました。また、クラブオウでは本社、支社、熊本開発センター、全工場でゼロエミッションを達成しました。



ホームページのご案内 >>> <http://www.kurabo.co.jp>

当社ホームページでは、会社案内やニュースリリースのほか、IR情報をお届けするため、「株主・投資家情報」のサイトを開設しています。

当社の開示資料を閲覧できる「IR資料室」、IR活動の日程をまとめた「IRカレンダー」など、株主の皆様のお役に立つ情報を提供しています。

株主メモ

- **事業年度** 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- **定時株主総会** 毎年6月
- **基準日**
 - (1) 定時株主総会・期末配当金 毎年3月31日
 - (2) 中間配当金 毎年9月30日
- **公告の方法**

電子公告の方法により行います。
公告掲載URL <http://www.kurabo.co.jp>
※事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
- **単元株式数** 1,000株
- **株主名簿管理人・特別口座の口座管理機関**

三菱UFJ信託銀行株式会社
- **同連絡先**

三菱UFJ信託銀行株式会社
大阪証券代行部
〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
電話 0120-094-777 (通話料無料)

【ご注意】

- 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求・買増請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取扱いいたします。

※平成23年5月3日に倉敷機械株式会社との株式交換に伴う株式の割当により当社株主となられた株主様のうち、証券会社等に口座を開設されていない株主様のご連絡先は、以下のとおりです。

特別口座の口座管理機関 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
電話 0120-288-324(通話料無料)